

ふれあい歴史体験講座

- 定員** 各回70名程度(先着順)
- 時間** 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)

	実施日	内容	時間	材料費	受付開始日
第7回	8月7日(土)	勾玉作り	午前のみ	200円	7月21日
第8回	8月28日(土)	粘土はにわ作り	午前・午後	210円	8月6日
第9回	9月11日(土)	土面作り	午前のみ	120円	8月20日
第10回	9月25日(土)	勾玉作り	午前・午後	200円	9月6日
第11回	10月9日(土)	管玉・丸玉作り	午前・午後	260円	9月22日
第12回	10月23日(土)	遺跡発掘体験	午前のみ	無料	10月6日
第13回	11月13日(土)	古代火起こし	午前のみ	無料	10月20日
第14回	11月27日(土)	粘土はにわ作り	午前・午後	210円	11月6日
第15回	12月11日(土)	縄文土器作り	午前のみ	300円	11月20日

応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

子ども1日学芸員

- 内容** 資料の整理や様々な催しの準備など歴史資料館のしごとが体験できます。
- 日時** 8月18日(水) 9時30分～16時 **対象** 小5・6年・中学・高校生
- 参加費** 無料 **定員** 30名(先着順) **申し込み** 7月21日より電話でお申し込み下さい。



勾玉作り教室

- 内容** 夏休み中の2日間と11月の2日間に、歴史資料館1番人気の勾玉が予約なしで作れます。時間内であれば何回でも作れます。
- 実施日** 7月24日(土)・25日(日)
11月3日(水)・21日(日)
- 受付時間** 9時～11時と13時～15時
※時間内に随時受付ます。
(製作時間:1時間30分程度)
- 材料費** 200円 **準備物** マスク・ビニール袋(2枚)
ぞうきん、または古タオル

夏休みジュニア歴史講座

- 内容** オリジナル勾玉作り・粘土はにわ作り・火起こしなどの歴史体験講座を2日間にかけて行います。
- 日時** 7月29日(木)～30日(金) 13時30分～16時
- 対象** 小学3年生～中学生 ※2日間とも参加できる人
- 材料費** 410円 **定員** 50名(多数の場合は抽選)
- 申し込み** 往復はがきに、住所・氏名(ふりがな)・学年・保護者名・電話番号・講座名を明記し、7月16日(当日消印有効)までに歴史資料館へお申し込み下さい。

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol. 92
2010.7.10

大分市歴史資料館へ車で行こう!

トピックス 平成22年6月28日より実施された高速道路無料化社会実験により、大分IC以南の高速道路が平成23年3月31日まで無料になりました。高速道路を利用される方が増えることが予想されます。そこで、近隣の史跡等を掲載した案内地図を新たに作成いたしました。歴史資料館に近い大分IC、光吉ICより歴史資料館までの詳しいご案内をします。



大分ICから 大分IC出口の信号を左折し、次の信号を左折、高速道路の下をくぐり、坂を下る。信号を一つ過ぎ、踏切を越えた先の信号を右折、医大バイパスを挟間方面へ進む。大分大学医学部を過ぎ、左車線が左折専用車線になる信号を左折、道なりに進む。長い下り坂を降りた、踏切の先に歴史資料館が見えます。
☆大分ICから歴史資料館への道の途中、高速道路の高架をくぐり、坂を下りたところにある信号を右折すると国指定史跡「千代丸古墳」、左折すると県指定史跡「丑殿古墳」があります。

光吉ICから 光吉IC出口の信号を野津原・田尻方面へ、ホワイトロード(国道210号線)をしばらく進む。植田新都心を抜け、植田小横の坂を越えた先の「富士見ヶ丘団地入り口」交差点(右折車線あり)を右折する。信号の先の「国分橋」を渡り、案内看板に沿って左折し、坂を上りきると、歴史資料館が見えます。
☆光吉ICから歴史資料館への道の途中、ホワイトロードから案内看板に従って左折すると、国指定史跡「高瀬石仏」があります。

- 利用案内**
- 開館時間** 9時から17時(入館は16時30分まで)
 - 休館日** 月曜日(但し祝日の場合は開館、但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日)
 - 祝日の翌日** 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日
 - 観覧料** 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。
※特別展開催中は別料金となる場合があります。
 - 交通機関** JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分
大分バス[国分新町ゆき] 歴史資料館入口下車 徒歩5分
大分自動車道 大分IC・光吉ICよりともに約15分

発行日:平成22年7月10日
発行:大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL097-549-0880 Fax097-549-5766
※大分市ホームページの「観光・魅力>歴史・文化財>歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」も併せてご覧下さい。
(http://www.city.oita.oita.jp/)

どこがちがうの? ものの形から歴史を探る

7月10日(土)～10月17日(日)

大分市歴史資料館 テーマ展示Ⅱ

観察7: 縄文土器 (じょうもんどもき 縄文土器)

観察8: 矢じり (やじり)

観察9: いしやり (いしやり)

観察10: やよいどき 弥生土器 (やよいどき 弥生土器)

観察11: はじき 土師器 (はじき 土師器)

観察12: すえき 須恵器 (すえき 須恵器)

どこがちがうの？ ものの形から歴史を探る

会期：7月10日(土)～10月17日(日)

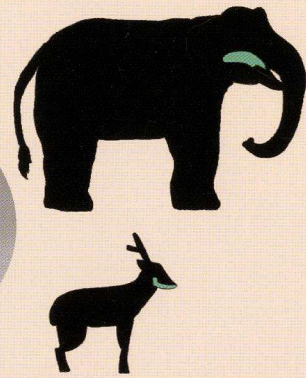


大分市内では、およそ400箇所の遺跡が見つかり、毎年市内のどこかで発掘調査が行われています。そこからはたくさんの土器や石器などの出土品(考古学では「遺物」と呼びます)が発見されています。特に文字が使われていなかった時代では、この出土した遺物、遺跡が当時の人々の生活の様子を知る唯一の手がかりになります。今回の展示では、市内で出土した各時代の代表的な遺物を並べて比較展示し、その違いや変化から、どのように人々の暮らしが移り変わっていったのかをクイズ感覚で読み解いていきます。

観察1 ちがうの？



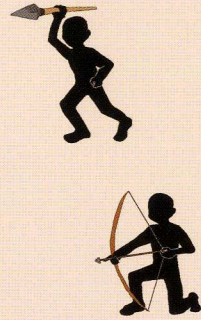
ステゴドンゾウ上あご化石 (約144万年～40万年前)
シカの下あご(約4500年前)



時代の環境によって生息している動物が異なっていました。

観察2

石やり(尖頭器)と矢じり(石鏃)



「石やり」は石に長い棒をつけた狩りの道具。ゾウのような大きな動物を捕まえるために使われました。

「矢じり」は弓矢の矢の先につけた石器。シカなどの動きの早い動物を捕まえるために使われました。捕まえる動物に応じて道具も変化していったことがわかります。



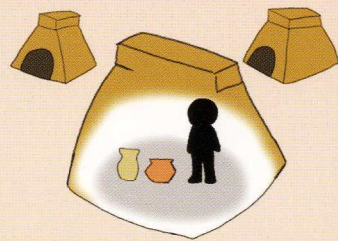
石器(約2～3万年前) 縄文土器(約9000年前)

約1万5千年前に寒冷な気候から温暖な気候に変わります。この環境の変化により木の実を食料とする生活もはじまり、これを有効に食べるために土器が発明されたと言われています。この大きな気候の変化により、石を主な道具としていた時代から土器が使われる時代へ移り変わります。



縄文土器 [尖底] 縄文土器 [平底] (約8000年前) (約7000年前)

底の尖った土器は、地面に穴を掘る。あるいは、石で底の部分固定して使っていました。縄文時代のはじめ頃は、獲物や食料を求めての移動生活が主流であったと言われています。このため土器も使用するときだけ炉に立てればよかったと考えられます。



平底の土器が一般的になる頃、遺跡からは「竪穴住居」と呼ばれる住居の跡が数多く発見されます。一定の場所に住居をつくり、その場に長期的に住む定住生活が始まります。土器は常に置いておくことから平底の土器が作られるようになったと推測できます。



縄文土器 [磨消縄文] 縄文土器 [黒色磨研土器] (約4500年前) (約3300年前)

「磨消縄文」は表面に縄目をつけた後、線と線で模様を描き、その間の縄目を擦り消して、模様を際立たせるものです。この手法は東日本から瀬戸内を通過して、九州に伝わりました。土器の模様や形などから、他地域との交流がみえてきます。

観察6

ませいせきふ 磨製石斧 (約4500年前) だせいせきふ 打製石斧 (約4500年前)

木を切る道具 土を掘る道具

観察8

せきぞく 石鏃 [縄文時代] (約4500年前) せきぞく 石鏃 [弥生時代] (約2000年前)

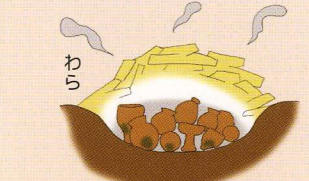
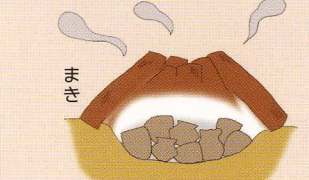
動物を捕る道具 戦いに使う道具

観察9

いしぼうちよう 石包丁 (約2000年前) てつがま 鉄鎌 (約900年前)

稲穂を摘む道具 稲を刈る道具

縄文土器と弥生土器

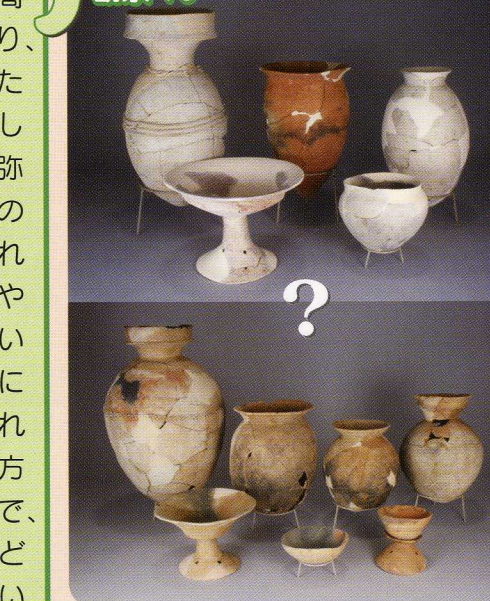


弥生時代になると、壺形の土器が普及するようになります。壺はモノを貯蔵するための器で、米作りが始まったことにより、食料を貯えておくという農耕社会への変化を示しています。

縄文土器は一般的に黒く、弥生土器は赤いイメージがあります。これは同じ野焼きでも、縄文時代は薪などを燃やして焼いたのに対して、弥生時代では、米作りで出たワラを用いて土器を焼きました。ワラにより密閉され、均一に焼きあがるようになりました。

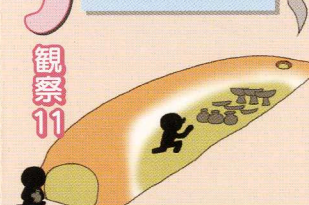
弥生土器は壺・甕・高坏・鉢などの種類があり、地域ごとに特徴をもった土器がつけられていました。古墳時代の土器は、弥生土器から続く素焼きの土器で「土師器」と呼ばれています。小形丸底壺や小形器台といった新しい器種が増え、甕も非常に薄い丸底のものが作られます。これらは近畿地方にみられる土器の特徴で、この手の壺・器台・甕などが全国一斉に普及しています。この土器の広がりから日本の国を統一しはじめた「ヤマト王権」の動きが読み取れます。

観察10



弥生時代の終わりの頃の土器 (約1900年前)
古墳時代の初めの頃の土器 (約1750年前)

土師器と須恵器



古墳時代になると、登り窯を使う新しい土器焼きの技術が渡来人によってもたらされます。硬く焼きあがった土器は「須恵器」と呼ばれています。

観察12

勾玉は動物のキバやお腹の中の子どもの姿を表したのものなどと言われていたようですが、まだまだ謎の多い魅惑のアクセサリーです。



ふれあい土器コーナー

各時代の土器(出土品)を直接さわられるコーナーを設置。当時の人々の息吹を身近に感じてみませんか！

【展示解説講座】
平成22年7月18日(日)14:00～〈無料〉
講座室にて、テーマ展示について、スライドなどで解説します。
※ 観覧する場合は観覧料が必要になります。